

平成 24 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

議事概要

平成 24 年 8 月 8 日 13:30 ～ 16:30

斜里町公民館 ゆめホール知床 公民館ホール

議案

1. 平成 24 年度知床世界自然遺産地域連絡会議役員について
2. 科学委員会の検討経過について
3. 第 36 回世界遺産委員会について
4. 平成 23 年度版知床白書について
5. 知床国立公園管理計画改定について
6. 希少種に配慮した国有林の取組について
7. 羅臼町環境基本計画について
8. 地域連絡会議等の今後の予定について
9. その他

●開会挨拶（釧路自然環境事務所長）

釧路自然環境事務所長の野口でございます。日頃より世界自然遺産の保全管理について御尽力、御理解を賜り誠にありがとうございます。本日は、大変お忙しいなか斜里町羅臼町の両町長をはじめ皆様方にお集まり頂き、感謝申し上げます。

本日はまず、今年度の科学委員会の検討経過を御報告させていただきます。そして、今年の第36回世界遺産委員会における知床世界自然遺産の審議結果についても御報告させていただきます。

また、林野庁からは希少猛禽類に配慮した国有林の取組みについて、続いて羅臼町からは羅臼町環境基本計画について御説明いただく予定です。

その他いくつか議題がございますが、忌憚のない御意見を頂きますようよろしくお願いいたします。それでは、短い時間ではありますがよろしくお願いいたします。

●馬場斜里町長御挨拶

皆さん、こんにちは。今日は平成24年度第1回知床世界自然遺産地域連絡会議ということで、この斜里町のゆめホール知床までお越しいただきまして、開催地として心より歓迎申し上げます、感謝申し上げます。また、日頃より知床世界自然遺産の適正な保護管理のためにご尽力をいただきます、関係機関の皆様にも改めて敬意を表するとともに、感謝を申し上げたいと思います。

先ほど羅臼町の脇町長ともお話しておりましたが、本当に今年は天気がいい日がなかなか続かない、気温も上がらない、そんな日が続いています。異常気象、全国では豪雨といったことが続いているわけですが、これも自然の一つの摂理というのでしょうか。そういう自然の中で、いかに知床の価値を維持していくか、そのために私たちが力を合わせてやっていかなければならないと思っています。

今日の会議はたくさんの議題がありまして、ボリュームたっぷりの資料もございますけれども、この会議を通じてさまざまな情報を共有して今後につなげていただければ幸いです。

改めて、今日お越しいただいたことに感謝を申し上げまして、一言御挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

議題1. 平成24年度知床世界自然遺産地域連絡会議役員について

■資料1：平成24年度知床世界自然遺産地域連絡会議役員について

…木村（環境省）より説明。

質問・意見なし

議題 2. 科学委員会の検討経過について

■資料 2-1：科学委員会及び各ワーキンググループ等の検討経過について

…木村より説明。

質問・意見なし

■資料 2-2：エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

別添：第 2 期知床半島エゾシカ保護管理計画 …寺内（環境省）より説明。

中山（環境省）：H23 シカ年度には試験的に捕獲を実施したが、H24 シカ年度はより本格的に行うことを目指している。捕獲実施にあたり、地元の方々や関係行政機関にはさまざまな調整をさせていただくことになるので、よろしくお願ひしたい。

■資料 2-3：海域ワーキンググループの経過報告・今後の予定

別添 1：知床世界自然遺産地域多利用型統合的の海域管理計画見直しの概要

別添 2：海域管理計画見直しスケジュール(案)

…高橋（北海道）より説明。

■資料 2-4：河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

…梶岡（北海道森林管理局）より説明。

■資料 2-5：適正利用・エコツアーリズム検討会議の検討結果

…野川（環境省）より説明。

中山：知床エコツアーリズム戦略を試行するための提案を今月末まで受け付けているので、是非ご提案いただきたい。

■資料 2-6：知床ヒグマ対策連絡会議について

…木村より説明。

中山：今日午前中にヒグマ対策連絡会議を開催したが、いつヒグマ対応のために出動しなければならないか分からない中で担当者で集まったので、ヒグマの出没が落ち着いた頃にも会議を開催し、じっくり議論する予定である。

上野（斜里町観光協会）：幌別-岩尾別地区に重点を置いており、冬期にも捕獲を行うことになるのだと思うが、道道を使用した冬の観光の実施について観光協会として現在利用計画を作っているところである。しかしエゾシカ捕獲の計画があがってくるのが遅く冬期利用の間近になってしまうので、可能な限り早く捕獲計画を協議していただきたい。冬期利用として潜在的に大きな価値をもっていると思われるので、捕獲計画について頻繁に情報交換させてほしい。

寺内：昨年度は冬期利用期間中はシャープシューティングを行わないこととしたが、まさにその時期がシャープシューティングに適した時期でもあると思われるので、冬期利用と共存させたいと考えている。密接に連絡を取り合いながら捕獲の計画を立てさせていきたい。

中山：速やかにご相談させていただくのでよろしくお願ひしたい。

松本（ウトロ地域協議会）：増えすぎたエゾシカの対処に関する要望書をウトロ地域協議会から10年前に出したが、当時は様々な問題があり駆除ができなかった。それから10年経ちエゾシカがさらに増加したことから、今度は一転して全道的に駆除を実施している。もう少し長期的な視点をもって管理を行っていく必要がある。

中山：予算の問題等もあり、行政としてすぐに事業ができないこともある。シカの増加は全道的というよりも全国的な問題となっているが、知床はシカ対策のモデル地域ということで予算も比較的潤沢についているので、対策をしっかりと行っていきたい。増えてしまったシカを一気に減らさないと対策の効果がでないことから、幌別-岩尾別地区では数千頭単位で捕獲することを検討している。それができたら長期的なスパンで管理を行っていくようにしたいのでご理解いただきたい。

松本：囲いわな等様々な手法を用いて捕獲を行っているが、補助金や助成金をもっとあればシカ肉がさらに流通し有効利用が図れる。そのような手立てを考えていただきたい。

寺内：環境省で捕獲したシカについては有効活用するようにしており、北海道エゾシカ対策室とも日々連絡を取り合いながら情報交換して対策を推進している。何かご提案いただければ道庁にも伝え実行できるようにしていきたい。

松本：研究開発等に対する補助はあるか？

中山：環境省にはないが、北海道庁には農業関係の予算等もあり、そちらの方が金額的に

も相当大きいのでそちらでお考えいただきたい。

上野：長期計画の中でシカ牧場の果たす役割が大きくなってくると思うが、ニュージーランドではシカ牧場が盛んであり、それが緩衝地帯となっているという話を聞いたことがある。環境省として将来にわたってシカの頭数管理を行う上でも、シカ肉産業に対するアプローチを積極的に行い、シカ肉流通のバックアップをしたほうが良いと考える。また、現在知床五湖では春先のヒグマの出没が非常に多く、地上歩道の利用ができなくなることが多々ある。ヒグマ保護管理方針の中での将来像が見えないが、ヒグマの馴化が相当進んでいるらしいので、その対策をどのように考えているのか、五湖の地上歩道をより利用できるような環境を用意できるのか、その見通しを教えてください。

中山：シカについては、環境省が現在試験的に捕獲している分は基本的に全て有効活用しているが、大量のシカを一気に捕獲し有効活用施設のキャパシティを超えてしまうため、あまり有効活用に向いていない。業者からは生体で引き渡してほしいという要望もあるので、今後の事業ではそういった点も検討し工夫していく。シカの頭数が平準化してからのほうが有効活用も進むと思われる。ヒグマについては、本日午前中開催されたヒグマ対策連絡会議においても、現場で対策している知床財団や斜里町からも知床五湖のヒグマや岩尾別の道路沿いのヒグマに関して、今までのヒグマとタイプが異なるためどのように対応すべきかという提起があった。原則としてヒグマ保護管理方針に従って対応していくことになるが、人馴れの進み過ぎた個体については捕獲という選択肢も当然あり得る。しかし、人前にはよく出てくるがまだ餌付しているわけではない個体については管理方針上は捕獲までは至らないこともある。想定よりも早いペースで馴化が進んでいる可能性もあるが、今シーズンの様子を見ながら管理方針の手直しも含めて今後の対応やについて関係者間で議論していく。

議題 3. 第 36 回世界遺産委員会について

■資料 3-1：第 36 回世界遺産委員会にいたるこれまでの経緯について

■資料 3-2：第 36 回世界遺産委員会知床に関する決議文（仮訳）

…木村より説明。

上野：5 番目の勧告について、「他の適切な手段を含む河川工作物」というのはどういったものをイメージしているのか？

梶岡：この指摘がされているのはルジャ川についてであり、IUCN のサケ科魚類専門家グ

ループが特に注目している河川である。長期モニタリングも実施している。科学的知見に基づいて今後もモニタリングを実施していくことになるが、改良を行うのか、撤去するのかについては10月に開催する河川工作物アドバイザー会議の中で議論する予定であるので、その内容を次回の地域連絡会議でお示しできることと思う。

議題 4. 平成 23 年度版知床白書について

■資料 4-1：平成 23 年度版知床世界自然遺産地域年次報告書について

■資料 4-2：平成 23 年度版知床世界自然遺産地域年次報告書（案）

…木村より説明。

桜井（ウトロ地域協議会）：p.16にある「平成 23 年度知床世界自然遺産地域における利用状況と評価」の上から7～9行目について、「観光客数（入り込み客数）が～～遺産登録後のピーク時以降続いている減少傾向である。斜里町では全体としての観光客の減少もわずかであり、東日本大震災による観光客の減少や福島原発事故による外国人観光客の減少の影響は見られなかった。」という形で明記されているが、この「減少は見られなかった」という記述に対する根拠を具体的に示してほしい。

木村：当該記述は適正利用・エコツーリズム検討会議の敷田座長に執筆していただいたものであるので、敷田委員に確認する。

桜井：まだ作成途中ということであるが、平成 23 年度というのは観光や産業にとって大きな変革の時期であったと思う。あれだけ日本中に大きな影響を与えた大震災と原発事故について、「外国人観光客の減少は見られなかった。」という一文で処理しないほうが良いと個人的には考える。このまま載せるのであれば、根拠資料をきちんと示すべき。

中山：敷田委員に後日照会する。

松本：テレビで地球の温暖化は一時的なものであると言っていたが、ここで温暖化という言葉を用いても良いものだろうか？

中山：温暖化については諸説あり、長期的には冷える、そもそも温暖化はないという説もあるが、国際的な枠組みの中で世界の科学者たちがシミュレーションした結果、温暖化していくというのが主流の意見となっている。知床の保全に関しても温暖化していくという前提で議論している。先日の平成 24 年度第 1 回科学委員会で、北海道大学を中心に進めて

いる知床での温暖化のモデルについて大島委員よりご説明いただいた。そういった研究の結果を見ながら今後の知床の管理について議論していきたい。温暖化していくものを簡単に止められるものでもないが、どのような状態になるのかまず把握する必要があるので、研究を進めていただいている。

上野: IUCN の決議文に「～当該国にその努力を継続するよう強く勧め～」と書いてある。10 年ほど前からシカ問題への対策に取り組んでほしい旨言い続けてきたが、なかなか具体的に進まず現在の状況になっており、経済的にも大きな負担を強いていると思われる。ヒグマについてももっと迫力あるアプローチをしておかないと、近いうちに非常に大きな問題となりそうな気がする。5 年ほど前にウトロ地区にシカ柵ができたが、あれはシカ柵兼クマ柵である。住宅地の近くでシカをクマが追いかけるのを何回か目撃しており、早く手を打たないと住宅地にどんどんクマが進入してくる環境を作ってしまうということで、住宅地を囲む電気柵を設置した。このままいくともっと危険な状況になると思われる。親子グマが人前に居座るといった事例もあったが、子を連れた母グマが人を避けないというのはこれまでからすると変わった事態である。クマが人との間に緊張関係を持たなくなって、人とクマとの関係が一步進んだ状態にきていると思う。これは由々しき問題であると思っており、住民としてより積極的な対策を望んでいる。また、協議会の中でこれまで議論してきたが、ヒグマの出没が増え知床五湖の地上歩道の利用者が減少している中で、滞留時間を少しでも軽減するために駐車場の拡張に取り組んでほしい。環境省が昨年今年で若干拡張した経緯はあるが、斜里町側もアプローチ部分をもう少し改良し駐車台数を増やせば、五湖の滞留時間が長くなったことの影響が軽減できると思う。環境省からは、駐車場周辺の自然調査は終了した旨聞いているが、対策がなかなか進んでいないように見えるので、斜里町の経済的な取組みと環境省の今後の方向性について教えてほしい。

中山: 過去の IUCN 勧告に対する今までのこちらの対応を基本的に評価してもらっており、それを継続するようという主旨であるが、ヒグマの話とはあまり関連はない。むしろ IUCN としてはヒグマを捕獲しないようというのが本心であり、安全対策としてヒグマの個体数管理を進めていくのは IUCN の意向には沿わないものであると思われる。駐車場については、今年環境省直轄で一部直したが、大部分は北海道の管轄であり斜里町の駐車場でもある。複雑だが、一つの駐車場に管理者が 3 者いる。今後の方向性については 3 者で議論して決めていくことになる。周辺の調査は環境省で実施しており、拡張することに特段の影響はないことが分かっている。費用負担や管理のあり方について 3 者で詰め、その内容次第であると思われる。

高橋: 駐車場の確保と同時に安全確保という面も考慮する必要がある。北海道の財政状況も厳しいが、環境省と斜里町と相談していきたい。

北（斜里町）：知床五湖の新たな利用システムが稼働している中で滞留時間の問題等も発生し地元から要望もあることなので、3者で協議していきたい。一刻も早く解決したいことであるので、土地所有者である斜里町として環境省に要望も出しているし、元々の設置者である北海道にもご理解いただきたいと考えている。

上野：なるべく早めの対応をお願いしたい。

中山：駐車場の話は知床白書の中にも「課題」として出ているものである。知床白書はまだ作成途中で、関係機関にもご協力いただいて執筆していただいているところであるので、改善点や指摘等あれば遠慮なくおっしゃっていただきたい。

上野：冬期利用と冬の自然保護についてもっと前面に押し出すべきと考える。冬の生態系に関する言及があまりなされていない。冬期のツアーをどうすべきかというのはエコツアーにとっても大きな課題である。それについて一つ大きな柱を立てるぐらいのレベルで協議してもらえないか。流氷がもたらす自然生態系というのを地域としても掲げている場所があるので、冬についての言及がもっとされるべき。冬は経済規模も生物の動きも小さいが、一年の半分近くが冬であるので、その点についてアプローチしてほしい。

中山：昨冬は五湖の駐車場の工事の関係で環境省で道路を除雪しており、安全対策の観点から利用者にもクルマで五湖まで入っていただくように切り替えていた。通常であれば五湖まで歩いてきたものであるが、イレギュラーな形となっていた。工事が完了すれば元の利用形態に戻るが、ただ、シカ対策の面から道路を除雪することになるので、そちらのほうでもご議論いただきたいと考えている。今は知床白書の話であったが、適正利用・エコツーリズム検討会議で先ほどの知床エコツーリズム戦略に基づく提案としてご議論いただくような話ではないかと思う。その場合は部会を立ち上げて議論することになるが、大きな柱を立てて議論するというのであれば、現在募集中でもあるのでエコツアー戦略のほうでご提案いただくほうが良いと考える。知床白書に関するご意見があれば、後日でもよいので当所の木村か、現場保護官にお寄せいただきたい。

議題 5. 知床国立公園管理計画改定について

- 資料 5-1：知床国立公園管理計画検討会の設置について
- 資料 5-2：知床国立公園管理計画（骨子案）
- 資料 5-3：検討すべきポイントと事務局案

…三宅（環境省）より説明。

中山：資料5-3のp.18の上から3段目に知床五湖の項があり、先ほど話の出た駐車場に関して「利用調整地区制度導入による利用動態変化を踏まえ、必要最小限の駐車場の拡張を行う。」としている。誰がやるのかまでは書いていないが、このように方針を記述している。このような形で許認可や整備の方針が書き込まれるものであり様々なものに直結するので、なにかご意見があればなるべく早めに保護官事務所のほうで承りたい。

佐々木：資料5-3p.11のカ。羅臼湖の末尾に「知床峠園地までの歩道延長の必要性について検討する。」あるが、これは実現性があるものなのか？羅臼湖部会で提案したことがあったが、この管理計画で取り上げられてうれしく思う。羅臼湖は静寂性を楽しむ場所として、入り口の部分である程度入り込みをセーブしている。しかしレンタカーの観光客や地元の利用者はクルマを峠園地に停めて歩いて来る必要がある。なるべくバスの利用を推奨しているものであるが、もう一つの選択肢として峠園地から徒歩で来るというのがある。以前観光協会の有志で歩いてみたことがあるが、交通事故の危険が多かった。特にガスが出ているときは危険である。そういったわけで提案したのであるが、「検討する。」というのは羅臼湖部会や適正利用・エコツーリズム検討会議で取り上げるということであるか？

三宅：羅臼湖部会で峠園地からの歩道設置の必要性について指摘されているが、まずは羅臼湖歩道の付替えを優先させていただいている。歩道延長については今後議論させていただく。羅臼湖部会も今年度で閉じるのか来年度以降も継続するのか未定であるため、本件について羅臼湖部会で議論するのか、適正利用・エコツーリズム検討会議で議論するのかは先のことでまだ決まっていない。歩道の整備が2年ほどで完了し、バス停も整備して利用動態が変化すると思うので、それが落ち着いた段階で議論したい。

中山：国立公園の管理計画は息の長いものであり、知床も前回平成5年策定以来の改定である。先の話であっても盛り込んでおいたほうが良いだろうということで記述している。先に整備をしたうえで地域の方々と議論をしていきたい。

佐々木：「知床峠園地までの歩道延長」というのは、あくまでも羅臼湖までのアプローチという意味であるか？横断道路沿いにできるというイメージでいるが、既存の枠組みで言えば羅臼湖歩道は環境省・森林管理局・北海道で執行しており、北海道開発局は停車帯を管轄している。これらの中のどれかが整備するということか？

三宅：当初羅臼町・知床世界自然遺産協議会から提案があったのは車道沿いに歩行者用の通路を作るということであった。その内容でいけば開発局の担当となるが、車道沿いの歩

道とするのか、森林内の歩道とするのか、だれが執行するのかという点も含めて将来議論していきたい。

石田（羅臼町）：p.19のルサ相泊線の「交通安全、危険防止等のための改良については、極力抑制を図る。」という文言について、むしろ逆の意味になると思うので地元としては納得がいかない。また「既存の雪崩防止柵等の撤去のための方策を検討する。」という文言について、必要だから設置したのであってそれを撤去するというのは、町民の安全を考えると役場としては応じがたい。

中山：枠組みとして検討会が本来の議論の場で、羅臼町にもその場に入っていたらいいし、案の段階でまた協議させていただくことになる。ただ検討会の場でもこれらに対する批判的な声があり、それらも踏まえて議論する必要があるので、現在の案の段階ではこのような形で記述している。今後羅臼町も入っている場で議論していくのでよろしく願いしたい。

石田：既存の雪崩防止柵等が鋼製であるので、例えば植樹等によって同じ目的が達成できるように検討するという意味であるとの理解で良いか？

中山：いろいろあると思うが、いまウトロ側でやっているのが防止柵の規模を小さくして植栽を多くしてもらい、景観的にも良くしながら防雪の効果も確保するというものである。他にも方策はあると思う。まだ案の段階であるので、分かりづらければどんどん文言を直していく。まだ検討会の場があるし個別にも調整させていただく。

上野：先ほど羅臼湖のところで駐車帯の話が出たが、それはもう既定路線であるのか？

中山：基本的にはそうである。駐車帯は駐車場ではなく、もう既定の話とさせていただいてよい。

松本：p.19の北海道自然歩道線というのはどこにあるものなのか？

野川：これは長距離自然歩道というもので、事業執行はされていないが、幌別橋から自然センターまでのカーブのところの車道沿いの歩道の部分がこれにあたる。執行はされていないが路線としては整備されている。

中山：国立公園に関係なく北海道全体に北海道自然歩道という計画がある。全国で最初は東海道自然歩道であり東京の高尾山から大阪まで一本整備されている。それを全国でやっ

ており、最後の自然歩道が北海道のものである。路線はあるが、なにしろ北海道は広いので山道をつなげていくのは難しく、国道沿いの歩道などもたくさんある。道標の整備など統一の規格があり、国立公園内に関しては環境省が直轄で整備し国立公園外は北海道が整備する。幌別橋～自然センターは車道併用区間にあたり、環境省は道標の整備のみを行う。

脇（羅臼町）：管理計画とは関係ない話であるが、確か再来年が知床国立公園指定50周年にあたるので何か計画していることはあるか？地元行政としてもなにかしらやりたいと考えている。あと2年しかないのでそろそろ準備に取りかからないといけない。

中山：今年は白山国立公園が指定50周年にあっており、それに合わせて自然公園大会という、以前は皇室関係者をお招きしていたがいまはご臨席は賜らず規模を縮小したものを環境省の事業として開催している。こういった他の公園の事例も見ながら検討していきたいが、知床国立公園は世界自然遺産にも登録されシカ対策に関しても我が国のトップランナーであるので、なにか行う方向でご相談させていただきたい。官民あげてよろしくお願ひしたい。

佐々木：先ほどのp.19の北海道自然歩道線についてこれは既存のものであるということであったが、いま羅臼側では熊越えの滝のところには歩道がないために近く空き地にクルマを停めて歩いて行かざるを得ない。歩道がないためにそのような状況になっているが、知床大橋があり観察会のときもそこを歩くが非常に危険である。新たな歩道の設置についてこの管理計画の中で検討しないのか？

三宅：p.11のキ。羅臼温泉集団施設地区の2段落目に「園地については、ビジターセンターを中心とした散策路として有効活用を図る。熊越えの滝方面への園路の延長について検討する。」と記述しているが、これもあくまでも将来的に検討したいと考えている段階であり、本当に実施するのであれば、管理計画の上位の公園計画を変更する必要がある。

佐々木：この管理計画は長いスパンのものであるということなので、このとおりに書き込んでいただいて、将来検討していただきたい。

中山：前向きに検討する。

新藤（知床財団）：p.8の羅臼岳についてお願いであるが、先週も登山に慣れているという方が日没後に羅臼側に下山してきて、キャンプ場に着いたのが夜9時頃になったという事例があった。羅臼岳に関する問い合わせが羅臼ビジターセンターに寄せられることが非常に多いので、羅臼岳に関するQ&Aをホームページにも掲載している。それを事前にご確認い

ただいている利用者の方は増えているが、その一方で百名山にも選ばれているその名前のせいか、羅臼側ルートが真骨頂であるというような言われ方も一部でされており、その割にあまり整備がなされていない。羅臼湖と同じように、基本的には気軽に登れるような整備はしないというような方針であると認識しているが、この管理計画に「情報発信の充実等に努める。」が書かれているので、そのあたりも念頭に置いて発信していただきたい。

三宅：遺産施設等運営協議会の下に羅臼岳登山道維持管理部会を設置しており、羅臼側コースについては6月の山開きの前に羅臼自然保護官事務所と羅臼町、知床財団、羅臼山岳会、ガイド協議会、観光協会にも入っていただいて情報発信や整備について議論しているところ。先ほどおっしゃっていたQ&Aについては役場と観光協会でも共有して発信しており、歩道については山岳会に御尽力いただいて徐々に整備してきている。維持管理部会の枠組みを活用して議論していきたい。

中山：この管理計画はまだ案文であるので、なにか具体的な御意見等があれば両自然保護官事務所に御連絡いただきたい。

議題 6. 希少種に配慮した国有林の取組について

■資料 6：希少種に配慮した国有林の取組について

別添 1：希少猛禽類の生息に配慮した間伐モデル林の設定について

別添 2：平成 23 年度治山工事（魚道改良工）の実施について

別添 3：囲いワナにおけるエゾシカの生体捕獲事業について

…井上（北海道森林管理局）より説明。

質問・意見なし

議題 7. 羅臼町環境基本計画について

■資料 7：羅臼町環境基本計画

…田澤（羅臼町）より説明。

質問・意見なし

議題 8. 地域連絡会議等の今後の予定について

■資料 8：平成 24 年度地域連絡会議等の日程と主要議題（予定）

…木村より説明。

質問・意見なし

議題 9. その他

■資料 9-1：世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合について

■資料 9-2：世界遺産条約採択 40 周年記念シンポジウムについて

…木村より説明。

質問・意見なし

以上